

平成24年第23回

荒川区教育委員会定例会

平成24年12月14日

於) 特別会議室

荒川区教育委員会

平成24年荒川区教育委員会第23回定例会

1 日 時	平成24年12月14日	午後1時15分
2 場 所	特別会議室	
3 出席委員	委員長職務代理者 委 員 委 員 教 育 長	高 野 照 夫 高 田 昭 仁 小 林 敦 子 川 寄 祐 弘
4 欠席委員	委 員 長	青 山 侑
5 出席職員	教 育 部 長 教 育 総 務 課 長 教 育 施 設 課 長 学 務 課 長 社 会 教 育 課 長 社 会 体 育 課 長 指 導 室 長 南 千 住 図 書 館 長 書 記 書 記 書 記 書 記 書 記	谷 嶋 弘 佐 藤 泰 祥 丹 雅 敏 平 賀 隆 山 本 吉 毅 泉 谷 清 文 武 井 勝 久 小 堀 明 美 瀬 下 清 大 谷 実 浅 沼 佳 子 湯 田 道 徳 渡 部 由 香

(1) 審議事項

第30号 幼稚園教育職員の管理職手当に関する規則の一部を改正する規則

(2) 報告事項

ア 校長職選考・教育管理職（副校長及び副園長）選考合格者について

イ 平成24年度東京都教育委員会職員表彰受賞内定者（団体）の概要について

- ウ 平成24年度「あらかわ小論文コンテスト」の審査結果について
 - エ 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施結果について
 - オ 平成25年「成人の日のつどい」の概要について
 - カ 区議会第4回定例会について
- (3) その他

委員長職務代理者 ただいまから、荒川区教育委員会第23回定例会を開催いたします。

本日は青山委員長が都合により欠席されておりますので、私が代理で議事を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

出席委員数の御報告を申し上げます。本日、4名出席でございます。

会議録の署名委員は、高田委員及び小林委員にお願いいたします。

教育長、あいさつをお願いします。

教育長 本日の審議、よろしくお願いいたします。

委員長職務代理者 9月14日開催の第17回定例会の会議録及び9月28日開催の第18回定例会の会議録が机上に配布されております。次回の定例会で承認についてお諮りいたしますので、次回までに確認し、何かお気づきの点があれば事務局まで連絡をお願いいたします。

それでは、本日の議事日程に従いまして、議事を進めます。

本日は、審議事項が1件、報告事項が6件でございます。

初めに、議案の審議を行います。

議案第30号「幼稚園教育職員の管理職手当に関する規則の一部を改正する規則」を議題といたします。事務局より議案の御説明をお願いいたします。

教育総務課長 それでは、議案第30号「幼稚園教育職員の管理職手当に関する規則の一部を改正する規則」について、御説明いたします。

提案理由でございます。幼稚園教育職員の給与に関する条例の改正に伴い、幼稚園教育職員の管理職手当に関する規則を改めるものでございます。

内容でございますが、こちらにつきましては先日、文書付議をさせていただきました。幼稚園教育職員の給与の公民格差、-783円、率としまして-0.19%を解消するため、給料表の引下げ改定に伴い、現行の4級（園長）の管理職手当が、最高号級の額の20%を上回るため、改正を行うものでございます。

改正前の園長の支給額でございますが、右側でございますが、9万1,400円を改正後、左側の9万1,200円にということで、第2条関係の別表を改正するものでございます。

施行期日は、平成25年1月1日でございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

委員長職務代理者 ただいまの説明について、質疑はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長職務代理者 ないようであれば、質疑を終了いたします。

議案第30号について、意見はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長職務代理者 では、討論を終了いたします。

議案第30号については、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長職務代理者 異議ないものと認めます。

議案第30号「幼稚園教育職員の管理職手当に関する規則の一部を改正する規則」は、原案のとおり決定いたしました。

続いて、報告事項に移ります。

初めに、「校長職選考・教育管理職（副校長及び副園長）選考合格者について」、御説明をお願いいたします。

指導室長 それでは、校長職選考及び教育管理職選考、まず副校長でございます。選考合格者について報告をさせていただきます。

骨子でございます。平成24年11月30日、東京都教育委員会から校長職選考及び教育管理職選考（副校長）選考合格者が発表されたので、本区の合格者を報告させていただきます。

内容でございます。1.校長職選考合格者、区分、小学校でございますが、所属、第二峡田小学校、津田昌明。もう一方、尾久宮前小学校、大山祐子でございます。受験資格は、年齢満58歳未満で教育管理職歴3年以上の者ということでございます。

続きまして、教育管理職（副校長）選考合格者でございます。B選考、小学校でございますが、第五峡田小学校、宮原典子、第一日暮里小学校、山根宏之、第三日暮里小学校、津田利枝、第六日暮里小学校、木村淳子、ひぐらし小学校、中西賢でございます。次、続いて、B選考の中学校でございますが、第五中学校、西村智子、尾久八幡中学校、豊田明でございます。受験資格は、満39歳以上54歳未満、主幹教諭の職にあるものとなっております。

続きまして、平成24年度幼稚園副園長選考合格者についてでございます。

骨子でございます。特別区人事・厚生事務組合教育委員会から特別区立幼稚園副園長選考合格者が発表されたので、本区の合格者を報告いたします。

内容でございます。幼稚園の副園長選考合格者といたしまして、南千住第三幼稚園の主任教諭、三宅恵子、町屋幼稚園の主任教諭、立石晃子でございます。受験資格は、年齢37歳以上56歳未満で区立幼稚園主任教諭歴1年以上ある者、区立幼稚園教諭経験7年以上でございます。

報告は以上でございます。よろしく願いいたします。

委員長職務代理者 ただいまの御説明について、質問ございませんでしょうか。

高田委員 校長職選考というのは2人受かりましたけれども、何人ぐらい受けたのですか。

指導室長 今年度につきましては、小学校が10名、中学校が5名ということなのですが、そのうち小学校の2名だけ合格ということで、大変厳しい結果になっております。

高田委員 わかりました。

教育長 特に今、小学校の副校長が足りないので、中学校で副校長に受かった人が小学校の副校長になるという状況です。副校長が全都的に足りないということで、副校長を受けた人は全員合格していますから。B選考は、受けた人全員合格しているという状況です。

高田委員 副校長が足りなくなるから、副校長が校長になる審査を厳しくしている。

教育長 だから、今、Bをどんどん入れています。東京都が今度、試験がなくても校長になれるような選考方法を考えています。

委員長職務代理者 校長職2名の方が合格。教育管理職（副校長）は、7名の方が合格。それと幼稚園副園長、2人の方が合格。難関を突破したということで、本当におめでとうございます。

これについて、御質問ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長職務代理者 続いて「平成24年度東京都教育委員会職員表彰受賞内定者（団体）の概要について」、御説明をお願いいたします。

指導室長 「平成24年度東京都教育委員会職員表彰受賞内定者（団体）の概要について」、報告をさせていただきます。

まず、本都在職10年以上で管理職を除く者でございますが、御一人目、栗山智子、汐入東小学校主任教諭、34歳でございます。主な功績内容といたしましては、学校運営の推進、国語科教育の推進ということで、司書教諭として開校から2年の汐入東小学校でございますけれども、学校図書館を活用した教育活動の基礎を築いたといったようなこと。そのほか国語教育の、国語研究の向上などの推進役となって貢献をいたしました。

続いて、小栗敦子、諏訪台中学校主任教諭、39歳でございます。生活指導の推進ということで、生活指導上の課題に対して妥協せずに徹底的に指導を行うといった粘り強さを持ち、生活指導力、学校経営力も高い能力を発揮しております。生徒と保護者からの信頼も厚いといったような内容でございます。

続きまして、（2）本都在職10年以上で管理職にある者でございます。

1、伊津壽美、第三日暮里小学校校長、60歳。主な功績内容といたしましては、学校経営ということで、リーダーシップを発揮して、校内を組織的に動かして、様々な課題、下にございます英語教育や道徳教育といったようなことに成果を上げました。また、昨年度は小学校長会長として、区全体の学校教育ビジョンの推進のために力量を発揮いたしました。

裏面でございます。2、石崎和夫、第九中学校校長、60歳でございます。主な功績内容といたしましては、学校経営で、平成21年度からスポーツ推進校として、朝の「体力づくり」を開始し、健康増進、生活リズムの改善に成果を上げております。また、東京駅伝大会、荒川区の総

監督を21年から務めまして、指導に当たっておりました。

(3) 団体でございます。受賞内定団体は、第三峡田小学校、校長、大塚昌志。学力向上・体力向上が主な功績内容でございます。区の学力調査における結果の向上、それから、朝の校庭開放の実施や一日一万歩運動など、体力の向上にも成果を上げております。

下の「 」のところでございますが、プレス発表は、12月5日に行いまして、表彰式は25年1月24日にホテルフロラシオン青山の方でとり行われることとなっております。

御説明につきましては以上でございます。よろしく申し上げます。

委員長職務代理者 ただいまの説明について、御質問はありますでしょうか。

小林委員 質問ではないのですが、伊津壽美校長先生ですけれども、先日、公開研究発表会がございまして、授業内容が非常にレベルが高く、とても印象的でした。伊津壽美先生のリーダーシップなしでは、とてもできないものだなと感銘を受けました。また、講師が新体操の秋山エリカ選手で、そのお話が大変にすばらしくて感動しました。胸に訴えるものがあって、とてもよかったです。受賞されて本当によかったと思っております。

教育長 本当に授業がピシッとしているし、むだがないです。服装まできちんと注意しますからね。言葉遣い、服装、それから教室の掲示物がちょっとでも曲がっていると注意します。

小林委員 そうですか。

教育長 本当によくやっています。外部の人が来られたら、びっくりしますよ。ちょっと新採には厳しいところがありますけれども、でも、伊津先生に仕込まれた人は、どこへ行っても通用します。

委員長職務代理者 いいですね。

小林委員 そうですね。

高田委員 先生からの信頼感も大きいですね。

小林委員 そうですね。ずっと指導に当たっていられた国土館の池田先生がおっしゃっていたのですけれども、体育の先生はやはり学級経営、学校経営が非常に上手だとおっしゃっていらして、その典型のような先生かなと思いつつ、話を聞かせていただきました。

高田委員 伊津先生も、石崎先生ももう60歳なので、表彰されて大変よかったなと思います。

栗山先生、小栗先生は、まだ30代ですね。

委員長職務代理者 そうですね。

高田委員 主任教諭で御活躍なので、早く管理職試験が受けられるといいなと思います。

委員長職務代理者 大変おめでとうございます。栗山先生は図書館を中心としての教育で表彰され、小栗先生は生活指導、学校経営ということで、若手の先生が表彰されたことは大変喜ばしいことです。伊津先生につきましては、お話がありました。そのほか石崎先生は駅伝の方で体力づ

くりを中心に、東京駅伝大会の荒川区総監督で活躍なかって、体力づくりをなされたということ。それから、大塚昌志校長は、教育長がよくお話ししていました。

教育長　そうです。朝早く、授業前に読書活動とか調べた箇所を辞書に付箋を貼るという。これは瑞光小の大橋校長の実績でもあると思いますが、それを引き継いでいただいているということで、本当にありがたいと思っています。

委員長職務代理者　朝のうちにしっかりと目と体を覚まして、勉強する準備をしてから勉強させると。そして、さらに体力づくりをしたということの表彰ですね。明るいニュースで本当によかったと思います。

他にございませんか。

なければ、続いて「平成24年度「あらかわ小論文コンテスト」の審査結果について」、御説明をお願いいたします。

指導室長　それでは、あらかわ小論文コンテストの御審査の方、本当にありがとうございました。報告をさせていただきます。

骨子でございます。読書活動の一層の充実を図り、学校図書館を活用した学習活動を推進するとともに、全ての教科等において言語を用いた論理的思考力や表現力の育成を目的とした「あらかわ小論文コンテスト」を実施し、優れた作品を表彰するという内容でさせていただきました。

審査結果につきましては、区長賞が、小学校各学年1点、中学校1点。教育委員会賞が、小学校各学年5点、中学校5点。小・中学校長会賞が、小学校各学年1点、中学校1点。奨励賞が、小学校各学年8点、中学校8点。佳作はそれ以外、校内審査を通過した作品となっております。

表彰者につきましては、別紙をつけさせていただいております。

作品の応募点数につきましては、10月26日、各学校で校内審査の上、指導室に応募をする形で、応募数が333点、小学校が292点、中学校41点といった数となっております。

表彰式を24年の12月20日、木曜日、午後3時30分から教育センター大会議室にて行います。

今後の予定といたしまして、平成25年1月、受賞作品をまとめた紹介冊子を作成し、各学校へ学校図書館閲覧用などとして配布します。冊子は御手元に、きょう、できたてのものをお届けいたしました。審査いただきまして、本当にありがとうございました。

御説明は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

委員長職務代理者　ただいまの説明について、御質問ございますか。

もう冊子ができているのですね。では、審査いただいた先生方にコメントをいただきます。

まず、私からコメントさせていただきます。

私は、4年生を担当しました。大変迷いましたが、区長賞には、「私の世界を広げてくれた

友達」を選びました。実は、区長賞に同点が四つあり、困りました。それぞれ素晴らしいのですが、区長賞としてふさわしい、タイトルもそれにふさわしいと思いました。その理由は、『チョコレートと青い空』という本の中のガーナのエリックさんの話やバレーボールを習っている体験の中から、人間関係について学び、友情の大切さ、人間愛が世界を広げていくというところが、とても若者らしくて、素晴らしい考えで、世界に目が向いて、そして、人間愛に満ちているなどということで、他にも素晴らしいものがあつたのですけれども、これを選ばせていただきました。

それと、教育委員会賞は、一つは、「水はどこから」を選びました。水は自然界の中で、また人工的に再生されて大切にしなければいけないと。そして自然界は、自浄作用的に再生しているのだと。そういう理化学的視点の考察から、自然の大切さ、水を中心としてよく考えています。

次は、「『一生けん命』はかっこいい!」を選びました。五輪選手から多くのことを学んで、ピアノの先生になるべく、努力する、頑張る、諦めない。この子もとても素晴らしくて、感謝の心が非常に重要であるということ結論としておりました。原動力の「原」という字が間違っているのではないかと思うのですけれども、ここが惜しいと思い、教育委員会賞にしました。

それから、「大切にしよう! 地球の宝物」を選びました。私たちは、地球から多くの資源をもらって生きていると。この宝物をいかに上手に使用するか。そういうことを考えておりました、リデュース、リユース、リサイクルの3点から、いわゆる自然環境の優しさを十分に大切に維持しなければいけないという呼びかけを、自分一人ではなく、多くの人に新聞係を通して広報をするのだと。世界にそういうことを発信しなければいけないという話でした。

次に「小さな行動、ツバルにとどけ!」。これも大変いい話で、ツバルという国が、温暖化によって水位が上がって水没してしまうという、これも今、話題のところを取り上げておりました。

もう一つは、「不思議なパワー」です。本のタイトルの『口で歩く』というのを見て不思議だ、何でだろうと疑問を持ちました。障がい者に対する愛情、荒川区の対策などをもって、いかにしたらよいかということが書かれていまして、これもいい作品でありました。心のある作品で、字も上手でした。

そして、校長会長賞は、「人間は二回死ぬという不思議」です。これはおもしろかったです。実はきょう、おばの葬儀に出てきたのですけれども、そのおばは、103歳まで生きて、非常にいいおばでして、立派な方だったのです。

人が死ぬということは、一回目は体がなくなったとき、二回目はみんなに忘れられたときだと。ひいおばあちゃんが死んで悲しかったけれども、私が覚えている限りは死なないと思うようになったという内容なのですね。

そんなことで、しっかり読み込んで、選ばせていただきました。

以上です。

では、小林先生、お願いします。

小林委員 私は、5年生を担当しました。まず区長賞は、「宇宙への案内人 - はやぶさ - 」という作品を選ばせていただきました。選んだ理由としましては、まず1点目としまして、テーマが宇宙ということもありまして、宇宙へ広がる高揚感というものを感じました。小論文ということなのですが、小論文にもかかわらず、壮大なスケールの話であるということから選ばせていただきました。

それと、2点目なのですが、すぐれた言語感覚がありまして、言葉遣いも非常にすばらしいものがあると思いました。また、文章のテンポが良く、なかなか、これだけのものは書けないのではないと思うぐらい、レベルの高い作品であったと思っております。

丁寧に御紹介したいと思うのですが、イトカワについての説明があって、「近そうだけれども、新幹線で行くと180年かかるらしい。やっぱり遠い」と、テンポがいいのですね。そして、最終的にははやぶさは、何度もの絶体絶命のトラブルを乗り越えてきたと。それで、「僕は思う。はやぶさの計画が予定どおりに何のトラブルもなく成功していたら、僕は、はやぶさのことを知らなかったかもしれない」。

教育長 そこはすごいですね。

小林委員 そうですね。何度ものトラブルに遭っても、諦めなかったということがありまして、「はやぶさのトラブルがきっかけで、僕は、はやぶさのことを知った。そして、宇宙に興味を持つことができた。そのつながりが宇宙の不思議なことの一つに思えた」という、このあたりも非常にすばらしいと思いました。それで、「宇宙に関することを勉強して、将来、宇宙につながる仕事ができたらいいと思った」と。最後も、「僕が宇宙のことに興味を持つきっかけをつくってくれた、はやぶさ。『ありがとう。お疲れさま』」といった……。

委員長職務代理者 泣かせますね。

小林委員 ちょっとうるっと、思わず感動してしまうような、そういったすばらしい作品であったと思います。

それと、次、教育委員会賞についてなのですが、これはどういった点が感銘を受けたかということをお説明させていただきたいと思っております。

『一房の葡萄』という作品がありまして、これは非常に自己省察の深さというものがありまして、深く自分を見つめている点、その点に非常に魅力を感じました。例えば、「私の心は広いときと狭いときがあります。どちらかという、狭いときの方が多いかもかもしれません」ということで、こういった作文を読みつつ、私自身も反省しました。そういった点が非常にこの作品は、すぐれているということで、選ばせていただきました。

次に、「自然との共存」という作品がありまして、これを選ばせていただいたのですが、1点

目としては、スケールの大きさというのがありまして、東日本大震災とともに金環日食について取り上げていまして、この中に、「確かに震災のときは自然に対する恐怖心や絶望といった感情があったが、この金環日食の体験を通じて、自然からの贈り物を人は多く受けていたことに気がついた」というようなくだりがありました。こういった点、非常にスケールの大きさを感じさせました。

それと、この作品なのですが、論理性、論理的な展開という点でも、とてもすぐれていると思いました。

それと、3番目に選ばせていただいたのが、「家族の一員としての幸せ」ということで、犬について、犬を飼うということについて取り上げています。この作品ですが、1点目としては、自然な感情の表現がされておりまして、非常に素直な気持ちが反映されているという点が、すばらしかったと思っております。

それと、2点目としては、犬から見た視点というのが描かれている点です。そういった点でも、こういった犬から見た視点というのは、なかなか大人の目では考えにくいような点がありまして、この視点の鋭さ、すばらしさということで、選ばせていただきました。

4番目の作品なのですが、「行動と勇気」という作品です。アピールする力、訴えかける力強さがありました。そして、テーマとして、いじめについて取り上げ、いじめについて取り組む中で、自分が実際に行動するための作文を書くといった、そういった力強さがありまして、選ばせていただきました。

それと、教育委員会賞、最後の作品として、「強い思いと行動で未来を変える」、この作品を選ばせていただきました。これは子供が未来を担う、そのために現在の社会を子供自身が変えていく。問題意識を持つことの重要性を訴えかけている作品だと思います。どうも現在の高齢化社会の中で非常に沈滞した空気があるのですが、その中で子供自身が未来を担っていく。そういった力強さがありまして、この作品を選ばせていただきました。

それと、校長会長賞は、「ファール昆虫記を読んで」を選ばせていただきました。これは非常にユーモアがあふれる作品です。まず、「僕は昆虫が苦手です」ということで、『ファール昆虫記』を読んだのですが、最後のくだりが、「最後にやっぱり虫はあまり好きだと思いませんでした」というのがありまして、非常にユーモアあふれる作品で、その点から、この作品を選ばせていただきました。

全体としては、非常にレベルの高さがあると思います。毎年、読ませていただくのですが、そのたびごとに荒川の作文力のレベルの高さというものを感じております。やはり地道な努力を荒川区は非常にしております。学校図書館の整備であるとか、こういった小論文コンテスト、こういった地道な努力を続けていくのが大切なのかなと考えさせられました。

以上です。

委員長職務代理者 ありがとうございます。

では、教育長、お願いします。

教育長 私は、3年生を担当しました。区長賞は、「大切なのは自分の心」を選ばせていただきました。小学校3年生にしては、自分を客観的によく見ているという感じがして、自分の日ごろの生活体験で、つい自分が嫌になったりとか、後回しにしたりとか、逃げたりする中で、『ココロ屋』という本を読んでから、弱い心と強い心を入れかえていく、心の中にもいろいろな心がある。優しい心、温かい心、素直な心。どれも大切な心ですと。それをうまく使えないで、困っているけれども、僕は強い心を育てますと。まさにこれは心理学みたいな感じで、心と心が向き合っているという、深層心理学の世界で、小学校3年生がここまで書けるのかなと、一瞬ドキッとしたのですけれども、これは心理学を学んでいる学生が書くものではないかと思うような。今からの方向性もきちんと、「ぼくは強い心を育てます。でも、強い心だけでなく、たくさんの種類の心があるほうがいいです。だから、ひろきと同じように、優しい心や温かい心、素直な心もたくさん使って育てたいです。」と、本当に自分をよく見つめています。これを区長賞にさせていただきました。

次に、教育委員会賞については、「わたしたちの幸せ」を選ばせていただきました。先ほどもありましたけれども、ガーナにはチョコレートがいっぱいあっても、その子供たちは食べられないのだという。日本と海外の違いを見ながら、日本だけではなくて、そういうガーナの子供たちに対する無関心が最大の敵であると、マザー・テレサが言ったような言葉を使っています。それにすごく感動しました。

あと、ひぐらし小学校の「力を合わせると大きな力になる」を選ばせていただきました。これについては、クラスの読み聞かせ係で本を選ぶとき、冒険の本が好きだとか、短目の本がいいとか、いろいろ意見が対立するが、『11ぴきのねこ』を読んで、助け合いや力を合わせる大切さに改めて気がついたという内容です。

次は、「犬ってすばらしいな!」という作品です。『ハチ公物語』を読んで、人間と動物の絆ということで、災害救助犬や介助犬やいろいろな犬がいる。犬を飼えるようになったら、絆を大事にして、育てていきたいということでした。

次は、「成功へのカギ」、『ヒカル』という本を読んです。これについても点数はほとんど13点なのですけれども。跳び箱6段が跳べなかったけれども、諦めないで、たくさんの練習を重ねて跳べるようになった。できないと言って諦めてしまうのだけれども、きちんとやればできる。自分を信じ、諦めてはいけないんだということを言っていました。

あとは、「リサイクルのひみつ」です。地球にはエコマークとかいろいろあります。地球の温

暖化等も考えながら、ごみは、種類別にきちんと分ければ、リサイクルできる。分別も自分の日々の生活の中で、きちんとやっていきたいということを言っていました。

以上です。

最後に校長会長賞ですが、「今、私にできること」、『ライチョウは生きる』。これは実際に自分が立山に登って、地球温暖化や排気ガスで、ライチョウが育たなくなってきたということを感じた。ライチョウがもう2,000羽以下に減っているのだという、絶滅したらどうしようと、泣きそうな気持ちになった。ライチョウを守るため、私にもできることは何だろうかということで、地球によいことをするために、水や電気の節約をしたりとか、マイバッグを持ったりとか、大地震が起きてからエコ活動を続けてきた。これからは、ライチョウのために、もっとがんばりたいということを述べていました。

以上です。

委員長職務代理者 ありがとうございます。3年生の子、感性がすばらしいですね。

教育長 区長賞は、本当に迷いました。点数が同じなのです。13点が4人で、12点が2人、11点が1人とか。困ってしまいますね。

小林委員 本当に困りますね、これは。

教育長 この子は3年生らしいなと思いつつも、こっちは、文章がいいなと。

委員長職務代理者 では、高田先生、よろしくお願ひします。

高田委員 私は6年生を担当しました。審査要旨、内容、構成、表現力で採点をしていきますと、3点のところ、4点のところ、5点のところとやっていって、15点満点が3人いました。

委員長職務代理者 私は、4人いました。

高田委員 それで、10点以下は除いて、7点残りだったので、ちょうど区長賞と教育委員会賞と校長賞。15点、3点の中で、どれを区長賞にするかというのは、もう図抜けているのが一つありまして、「江戸の生活に学ぼう」、これを区長賞にいたしました。日本のごみ焼却場が世界で一番多いのだという。ごみを減らすには、どうしたらいいかということがありまして、『江戸に学ぶ暮らし みんなでめざそう循環型社会』という本を読んで、輸入大国の日本は、お金で何でも入ってきて、ごみが増えてしまった。だけれども、外国と貿易をしていないころの江戸時代は一体どうだったのだろうかということに視点を当てて、循環型社会を築いていこうということが書かれています。目のつけどころというか、すごくいい論文でございました。江戸時代に目をつけたこの子の作品を区長賞にいたしました。

教育委員会賞は、「『可能性』を信じ努力すること」です。対象図書は、『アン・サリバン』。ヘレン・ケラーとアン・サリバンの物語ですね。これを読んで、自分も夢に向かって努力していきたいと。

もう1点は、「夢への実現」。『車いすバスケットで夢を駆ける』という本を読んで、ロンドンオリンピックからパラリンピックを事例に出して、自分もそういう夢をかなえていくために努力したいようなことが書いてありました。

以上でございます。

委員長職務代理者 では、1年生をお願いします。

教育部長 一番難しいと言われている1年生を担当させていただきました。最後、区長賞をどうしようかと非常に迷いました。区長賞に選んだ作品は、『やさいのおしゃべり』という本の感想で、いきなり「野菜はしゃべらないでしょ」という書き出しで始めた女の子の作品なのですが、野菜の気持ちになって、まず自分がちゃんと選ばれて料理に使われたいという野菜が、使われずに冷蔵庫からカビだらけになって捨てられしまったりするようなことを読んで、自分はちゃんと野菜を使って食べてあげるのだという気持ちになっていく。そのあたりの流れが非常に1年生らしい感性でまとまっているなということで、これを区長賞とさせていただきました。

もう一つ、非常に悩んだのが、教育委員会賞の最後の作品で、「へいわってうれしいこと」です。『へいわってどんなこと』という本を読んで、平和って何だろうと友達に聞いてみた。警察がうちの近くにあることだと1人が答えて、もう1人は、幸せでポカポカすることだと。とってもいいインタビューから入っているのです。ずっと本を読んでいくと、平和というのは戦争をしないことだということが書いてあって、そのことを父親に話したら、父親がベトナムで戦争の体験をしていたと。そういうことにつながっていくという、非常に取材力に満ちあふれた作品だったので、この二つを非常に迷いまして。教育委員会事務局の中で、あっちこっち聞いたのですが、やはり意見が真っ二つに割れまして、最後は1年生らしい感性の全体的なまとまりで、「やさいのおしゃべり」という作品にさせていただきました。

あと、教育委員会賞については、虫の飼育方法に関することですか、あるいは虫の気持ちになってというようなものが、アリとだんごむしとカブト虫と、三つありました。

それと、もう一つ、校長会長賞にしたのが、「たいせつなことば」ということで、けんかしたときに、「ごめんね」と謝ることの大切さを訴えた作品で、これを校長会長賞とさせていただきました。1年生はやはり難しかったです。

委員長職務代理者 ありがとうございます。

指導室長 それでは、私は中学生でございます。さすがに中学生ですので、読みごたえのある文章が多くございました。区長賞には、『下町ロケット』という小説を読んだ、「町工場から宇宙へ」という作品です。ロケットを発射する技術を中小企業が支えているといったような捉え方をすると同時に、その技術力だけではなくて、ものづくりに対する思いといったような視点もこの論文は捉えていて、その辺の考え方が大変しっかりしているなということで、これはあまり迷わ

ないで、これを区長賞とさせていただきます。

そのほか教育委員会賞につきましては、地球温暖化について。先ほど4年生のところで高野先生のお話にも出ていました、ツバルという国、『ツバル - 地球温暖化に沈む国』ということで、違う本かと思いますが、テーマは同じだと思いますけれども、CO₂排出ゼロの国が、海面上昇で沈んでいくといったような不条理を問題提起にしている、そこからしっかりと自分なりの考えを展開していました。

また、『ぼくたちは世界をかえることができない』では、国際貢献、あるいは日常生活の中の生きがいといったようなこと。

それから、『脳を活かす生活術』では、友達とのかかわりといったような身近なところを、脳の働きを手がかりにしながら、自分なりに考えていったというようなところ。

それから、「だれかのために」という『サッカーボーイズ15歳』といった本を読んだ作品ですけれども、リーダーシップについて、オリンピックにも絡めて語っていったような内容。

それから、「他人を理解すること」、『レインツリーの国』を読んだということですが、難聴の方と健常者といったような障害者福祉をテーマに捉えて、日常のそういう方とのかかわりも自分の考える契機として、考えをつくっていました。

それから最後、校長会長賞につきましては、これも日常生活ですけれども、毎日、よかったことと悪かったことを数値化する、精神ポイントというような捉え方の中で、自分の生活を改善していくといったような考えを述べていて、どの作品についても素晴らしいなと思いました。

以上でございます。

委員長職務代理者 ありがとうございます。

2年生は、きょう委員長が、お休みなので、かわりに。

小学校2年生は、区長賞が「かぞくのきずな」であります。

それから、教育委員会賞は、ここに書かれている5編であります。

それから、校長会長賞が「いのちのあさがお」であります。

以上、題名だけ読ませていただきました。

この全体を見ますと、テーマが同じものもありますね。低学年と中学生、あるいは低学年と高学年。同じテーマが違うように捉えられているのを比較するのに、この論文集は役に立つと思いますし、大変、教育的にもおもしろいと思いますので、御考察くださって、今後にお役に立てていただきたいと思います。これは小学校の先生方も、あるいは中学校の先生方も、子供って、こんなふうに視点が変わるのだなというのを、改めて評価する客観材料となると思いますので、ぜひ。これは、各学校に配るのですね。

指導室長 はい。

委員長職務代理者 コンテストの御評価、ありがとうございました。

続いて、「東京都『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の実施結果について」の御説明をお願いいたします。新聞報道にもございましたけれども、改めてお願いします。

指導室長 それでは、「東京都『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の実施結果について」、報告させていただきます。

骨子でございます。東京都教育委員会は、平成24年7月5日に全都の公立小・中学校で「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、その結果を発表したので報告をいたします。

調査の名称につきましては、ここにあるとおりでございます。

調査の目的につきましては、4点ございますが、(3)の各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人ひとりの学力の向上を図るといった目的。そのほか、(1)のところでは、全都の教育行政に生かす。(2)のところでは、自地区の教育行政施策に生かす。(4)のところでは、その状況について都民に広く理解を求めるといったような調査の目的で行っております。

対象につきましては、先ほど申しましたように、公立小学校の5年生及び公立中学校の2年生でございます。

実施日は、7月5日でございます。

内容につきましては、(1)のところ、国語、社会、算数・数学、理科、外国語(英語)のペーパーテスト形式による調査と、(2)はそういう意識調査、(3)は学校に対する質問形式の調査といった内容でございます。

6、調査結果につきましては、11月22日に東京都教育委員会は、東京都の小・中学校別、教科別の正答率を都のホームページに公表をしております。

荒川区教育委員会が把握している小・中学校別の正答率、これは公表されてはおりません。非公表でございますが、その比較が次の裏面の表の内容となります。

(1)は、小学校でございます。4教科、東京都の平均と荒川区の平均、それと差ということで示させていただいております。

(2)は中学校で、同じように、今度は5教科でございますが、都と区の平均値、それから差ということで示させていただいております。

(3)のところ、小・中学校別の正答率の状況でございますが、小学校の国語の全体平均値については、都の平均値を超えたが、算数、社会、理科は都の全体平均値を下回った。若干、下回っているということです。

中学校の国語以外の教科では、5ポイント以上、都の平均値を下回ったという結果でございます。

7、授業改善推進における今後の対応ということで、短期的対策といたしまして、教育委員会として、調査結果を教科別に分析し、調査対象学年の学力調査の経年変化、授業の実態把握、区学力調査の意識調査から生活リズムも含めた学習習慣の実態等から課題のある小・中学校の調査結果の原因を明確にして、各校への指導に活かしていこうと思います。

(2) 臨時の中学校長会・臨時の関係小学校長会、小学校の方は全校ではございません。課題のある学校ということで、調査結果から何校かの校長に集まっていただきまして、臨時の校長会を開いております。それと、全体の定例校長会において、調査結果の説明をし、各校における教科ごとの分析及び改善策の検討・提出を求めています。

それから、調査結果から課題のある小・中学校への定期的な指導主事訪問を実施し、授業の実態把握を行うとともに、教科指導や学習規律等の具体的な指導を管理職へ行ってまいります。

中・長期的対策といたしましては、(1)平成25年度から、活用型の学力に特化した区独自の調査をやめて、標準型調査問題を実施し、基礎的基本的な学力と活用型の学力を同時に把握をしてまいります。調査結果については、個票で経年変化が見られるようにして、児童・生徒一人ひとりの継続的な指導に生かして参ります。

(2) 保護者や児童・生徒向けの「チャレンジ実践家庭学習・生活習慣」の内容の充実を図った改訂版を作成・配布し、さらに学習習慣や家庭学習の定着を図って参ります。

(3) 国、都、区の学力調査結果を踏まえ、学力向上への効果を検証した学校パワーアップ事業における「学力向上マニフェスト」へと、また、より改善して参りたいと思います。

報告につきましては、以上でございます。よろしくお願いたします。

教育長 小学校の中で、何校が都の標準を上回っているか報告してください。

教育部長 小学校は、全体的に見ると、24校中10校で東京都の平均を上回っている状況にあります。教科的に見ますと、国語では24校中17校が東京都の平均を上回っているということで、やはり学校図書館の整備等、国語力の向上に向けた取り組みは、ここはきちんと実を結んできているというか、明らかになってきたのかなと思っています。

全体としても小学校については、かなり東京都の平均のレベルに近づいているという感じはあります。徐々にではありますけれども。一方、中学校は、10校中、総トータルで申しますと、4教科で、東京都平均を上回っている中学校は2校です。全部の科目で上回っている学校は、残念ながらありません。東京都平均を総体では上回っていても、科目によって、やはり平均に及ばない科目があると。これはやはり中学校が教科制というか、教科担任制ということで、その問題があるのかなと思っています。

それから、やはり中学校は、かなりまだ全体的な底上げの問題があるのかなと思っています。実際、教育長とも学校を見させていただいて、そんなに荒れている学校というのは、今、ないので

すけれども、それがやっとスタートラインに着いたところなのかなというところですよ。それをもっとこの学力という点で反映されてこなくてはいけないのだと思うのですけれども、まだそこまで至っていないのかなと。

逆に、小学校の下の方にいる学校については、残念ながら学校を実際に見て回っても、ざわつきが目立つというところが、やはり下の方に来ています。中学校は、他区から異動して来た統括指導主事が見ても、ほかの区に比べて、教室はかなり落ち着いているのに、どうして成績が上がってこないのかというところがあるようです。それについては今後、学校の分析等をしたいと思っています。

いずれにしても、中学校の学力向上については、相変わらず重い課題だと受けとめをさせていただいております。

教育長 それから、一つは、ある大規模校で、先生方が毎年、7人、8人、異動している学年のクラスなのです、2年生が。だから、学校の先生方が異動しないで定着して、腰を落ち着けた授業をやっている学校と、3年したら出たというような感じで、学校の中で異動が激しい学校はやはり課題があります。

これはもちろん私の責任ですけれども、もっと分析してくれと。ただ、やっているだけでは、民間企業だったらつぶれるよと言ったのですよ。真摯な気持ちで危機感を持って、日々の教材研究とか授業研究とかやっているのかと。昔どおりの教科書を読んで、ただ、年表問題をやらせたりとか、漢字や単語のテストをやったりとか、そんなことでは追いつけないのですよ。だから、もう少し考えて、比較対照して、考える授業というか、そういう授業を組み立てていかないと。

それから、きのうも校長会で言ったばかりなのに、日暮里に近い学校の生徒がみんな、2時ごろ学校から帰っている。それで授業時数が本当に確保されているのかということをおは、一番危惧しています。

きのう、越谷の方へ行きましたが、越谷の子はみんな5時ごろ帰っているのですよ。何で荒川区は、そういう同じ時間帯で、確かに先生方の成績処理は忙しいのかもわからないけれども、もう少し授業時数をきちんと充実あるものにしていかないといけないのではないかなと、ちょっと実態は調べていませんけれども、きのう感じました。

通知表とか成績の記録をつけるために、子供がいると忙しいから早く帰すのかどうかかわからないですけれども、やはり教育委員会、指導室とタイアップして、やっていただきたい。

それから、PTAとも協力して、教科書が、どこまで進んでいるのかチェックしていかねばいけないと思います。昔、私が一中へ行ったときに、杉並区から新しく来た先生から、「この学校へ来たなら教科書が3分の1、残ってしまう」と言われました。3年いると慣れてきてしまう。

もう今はそれがなくなったと思って安心していたのですけれども、もっと介入して、指導してい

くということがやはり必要だと思うのです。

委員長職務代理者 ありがとうございます。

指導室長 授業時数については、例えば今年、中学校について土曜授業を昨年よりはかなり多く各校で実施をしていますので、全体的には増えていると私どもは捉えてはおります。ただ、時数もそうですし、質的な問題もありますので、その辺はしっかりと、特に、なかなか学級の荒れであるとか、あるいは今回の調査で課題があるといったような学校については、実態はどうかというのを、さらにまた学校の方に行って把握をして参りたいと思います。

高田委員 この間、夕方6時ごろ、原中の前を車で通ることがありました。そのころみんな、クラブ活動が終わったのか、真っ暗の中で、みんな、にこやかに帰っていく姿を見てみると、原中は、よくなったなという雰囲気すごくありました。子供たちを見ると、学校の雰囲気というのはわかるでしょう。夕方で真っ暗だったけれども、学校は暗くないなと思いましたが、成績の方も上がってくれるといいですね。

教育長 でも、原中は本当に人気が出て、人数がどんどん集まっています。今まではみんな、原中の前を通過して、よその学校へ行くので1学級か2学級になっていました。

今、来年度の応募者は、何人くらいいますか。

学務課長 原中は160人です。

教育長 今まで大体50人が60人しかいなかったのが、刑部先生が一生懸命、生活指導とか徹底的にやっていますので、どんどん増えてきて、人気も出てきて、今からが勝負だと思います。

四中では、新しく来た元千代田区の室長が努力して、いきなりグーッと上がったのです。だから子供のせいにはしてはいけないのですよ。地域のせいや子供のせいにしないでくれと、きのう校長会でも言ったのだけれども。やはり教え方なのです。教え方次第で学習意欲を高めてくれる。子供は、褒めなければだめなのですよ。「だめだ、だめだ、だめだ」というのではなく、褒めてあげれば子供は勉強するようになるのです。「君、すごいな」って。「ノートのとおり方、うまいな」とか言って褒めてあげると、「おれのノートのとおり方、うまいな」とか言って、ますますノートのとおり方が上手になる。褒め方が下手なのではないかと思うのですよ。子供の乗せ方が。心を動かしていけばグーッと伸びるということもありますので、校長の姿勢で変わっていくのだということを感じました。

高田委員 小学校は、クラスの担任が全部見ているから指導できるけれども、中学になると、自分の教科以外の人を教えていることに関しては、あまり言わないのか、何か、そういうのがあるのでしょうかね。

教育長 あります。数学の先生が英語の先生を注意したら、英語の先生が、「わかっていないじゃないか」という感じなのです、中学校は。小学校は全科だから。音楽とか体育は別ですが。中

学校は一国一城みたいな感じで、つまり共通認識、共通理解、共通努力というのができ難い状況があります。

荒教研でも、きのう話し合ったのだけれども、中学校は集まってこない。せっかく荒教研をやっているのに部活をやっていたりとか、事務処理をやっていたりとか。せっかくやっているのに研修会に参加しない。そういうことを含めて、荒教研の持っていく方も、中学校校長会の中でもっと真剣にですね。荒教研では、もう部活は禁止だということを徹底してやっていかないといけない。せっかく研修会のために区の教育委員会が大量の予算をつけていますので。

そういうことを含めて、もっと抜本的に考えていかないと。集まりが悪すぎます。せっかくの貴重な時間で、教材研究をしっかりとっていただきたいし、今回のこのことに対するテーマを決めていかないと、どうしようもない。来年は、そういうテーマまで私は介入するというわけにいかないけれども、ある程度、指導室の方で介入していかねばいけないと思います。

委員長職務代理者 おっしゃるとおりで、小学校の教育で一生懸命やって、こんなすばらしい子供たちが、荒川区の中学に入ると、全体的に東京都と比べるとマイナスになるというのは、全体の底上げが必要なのでしょうけれども、さらにいい高校生として送り出す、社会人として送り出すには、この重点を各学校に課す教育ですね。例えばマイナス5.4、英語が一番悪い学校はどこなのだと。それにはこういう教育指針を与えると。もちろん、先ほど川崎先生が指摘したように、授業日数が少ない、量も質も悪いということになると大変なことになる。教え方ですね。指導者が本当に大切なのですが、そういうところの分析を十分に、教育委員会として、その方策を考えて、一つ一つよくしないと全体の棚上げ、ボトムアップはできません。24年度は中学生教育を重点的にやろうという話になって、引き続き来年もこれは重要な目標ですね。その具体策を練って、できる限り教育委員会として協力するという姿勢をとらないと、やはり区が、教育は最重要であるということを掲げておりますので、これだと大変なことになると思います。

高田委員 小学校はまあまあだと思いますが、中学校でこれだけ成績が落ちると、とてもではないが荒川の中学にやれないからと私立に行かせるとか、傾向が流れていってしまったり、あるいは、他区の公立学校に移ってしまったりということが出てくると困ります。成績は、ある程度保ってくれないといけませんね。荒川区から子供たちが出ていってしまうようなことになったら困るので、ぜひ荒川区で学びたいと、ほかの区から来るぐらいにならないといけません。

教育長 本当に厳しい状況ですよ。教育委員会がそれを真摯に受け止めて、日々、実践に当たっています。抜き打ちして回ってもらっているのですよ、今回。去年より学校も落ちついているのだけれども、落ちついていることと、実際、勉強している内容をどこで検証できるかと。ちらっと10分か20分見てから、それがどこまでわかるかということも含めてね。今度、区議会の方

も回ってくださるそうです。

委員長職務代理者 それはもう教育委員会は何をしているんだと言われてしまいますから、ぜひ。この前、ある学校を皆さんで視察したときに、文武両道に秀でていると、非常にプライドに語っていた校長がいました。みんな、そういうふうになってほしいですね。

小林委員 ちょっとよろしいでしょうか。この成績を見せていただくと、国語、社会、数学、理科、英語とあるのですが、恐らく国語が一番ポイントなのかなという気がして、国語の読解力が、ほかの教科まで影響を与えているような気がします。その意味では、中学校の国語というのは非常に重要だと思います。その上で、ちょっと質問なのですが、これを分析した後、国語教育の専門家であるとか、そういった方に指導を受けるとか、アドバイスをいただくとか、そういったことというのはされるのでしょうか。

指導室長 今、結果が出たところですので。今まで教科ごとに例えば専門の方に見ていただいて、アドバイスをいただいたりということは、特段していません。この全体の成績を見てとかということでは。ただ、各校はその校内研で、例えばそういう言語力の専門の先生を呼んで、中学校でも研修会を行っていますので、そういったところではアドバイスはいただけるかと思います。

小林委員 そうですか。例えば早稲田大学にも国語教育の専門家等、いらっしゃいますので、もし何かあれば、御紹介させていただければと思います。

教育長 はい。

小林委員 やはり、少し長期的な観点から。

教育長 そうですね。一時、尾久小学校に、実際、ついて回って、学力が上がったのですよ。

小林委員 そうですか。

教育長 だから、そういう意味で来年の検証を含めて、各学校に入っていて、日々の授業を専門の先生に見ていただくとか。発問の仕方や家庭学習の仕方、授業の中でどういうコメントを書いているか。この前もいろいろ見て回ったのだけれども、「こういうところはよかったですね。こういうこともよく見つけましたね」と、コメントを一枚一枚、子供の作文とか調べたことに対して書いている学校と、作文を見て、ただ印鑑をポンポン押しして全く書いていない学校もあります。

委員長職務代理者 丁寧な指導というのは、国語力がすごく大切なのですけれども、どっしりした子供、落ち着いた子供が、国語力がよくできるようになるし、先生がおっしゃった国語力プラス落ち着いた子供をつくるのが大切です。そこのところをうまくつなぐ役目が、オールマイティ的な副校長の役目になるのでしょうか。中学へ入って喜んでしまって、クラブ活動もいいですけども、ちゃんとした行事をやっているのだから。

教育長 指導室の方で今言われた課題を学校別に分析して、やはり真摯に課題意識というか、危

機感を持ってほしいのですよ。現状の中でどうするかということ、具体的に考えていかないと。東京都は、東京都全体の人事行政を考えてくださっている、いろいろな人がいますので、荒川区だけいい人をくれというわけにはいかないのです。

委員長職務代理者 こういう事実が出ると、東京都教育委員会の人事をしているところは、考えてくれるのですか。

教育長 去年は、いろいろ小学校も中学校もすごい人がきました。だけれども、荒川区からも出す人がいるではないですか。出す人と対等なのです。人を出したら、向こうも同じような人が返ってくる。それは当然、23区共通です。

指導室長 やはり、いい先生ばかり都内でもいるわけではないので、どうしてもいろいろな方も入ってくるのですけれども、都の方も今回は都の予算で3校、中学校3校に予算をつけて学力向上に取り組むようにといったような、それはどこの区でもやってもらっているわけではなくて、本区と何区かといったような力の入れ方はしてくださっていて、場合によっては人事でも配慮していただいている面もあるのかと思います。ただ、だからといって、いい先生ばかりよこしていただけるということはありません。

委員長職務代理者 それは都の財政とかいろいろなことがあったりして、人材の人数とかありますけれども、以前、ここで話し合いをしたように、大学生の力を借りたり、それから掘り起こしたり、区として努力して、その不足の教科に関して大学生の人員の補強は可能だという話でしたよね。

教育長 予算が余っているからとってくださいと言うのに、とらない学校もあるのです。

委員長職務代理者 指導しないといけないのではないかと思います。

教育長 九中と四中は成果が上がってきているのです。だから、都から予算が来たところは、それなりに自覚してきていると思います。「あなたの学校は学力が低いから、都から予算が来ましたよ」と、先生全員に自覚させることによって努力しているのですよ。やはり去年より違ってきています。

教育部長 一昨日、臨時校長会を開きまして、中学校は全ての校長、それから小学校は成績がなかなか思うように上がらなかった学校を7校ほど呼びまして、今、高野先生からもお話があった、ティーチング・アシスタント、TAの活用等についても、指導室長から呼びかけをしてあります。それから、それぞれの学校で、やはり学校ごとに内容が違うのです。特定の教科はできているけれども、ほかの科目はだめだった学校とか、そうではなくて全体的にだめだった学校とか、やはりざわついている学校とか、そうではなくても成績が上がらない学校とかありますので、学校ごとに、まさに危機感を持って、校長と副校長だけで話すのではなくて、職員室全体できちんと話をしてやってほしいという話は伝えてありますので、この対応策をまたヒアリングしながら、改

善に少しでも結びつけていきたいと思っています。

教育長 ぜひ文書を出していただいて、その文書を読んで、これではだめだと思ったら、もう一回やり直してもらうぐらいの気持ちで、今度、やらせていただきますので、それについてはどう
いう文書だか、先生方にお見せしたいと思います。この学校はこういう取り組みをしているのだ
ということ。

委員長職務代理者 やはり、小林先生が御指摘のとおり、国語は小学校から中学までは正しい言
語力を、「超何とか」という言葉ができるぐらいですから、きちっとした言語力をつけさせない
といけません。

高田委員 国語言語能力ですね。学校図書館とか、荒川区では小学校からずっと力を入れてやっ
てきて、小学校はいいのですけれども、中学校になると、4.2ポイント下がると。それは、ど
うして下がったのだろうという問題と、私が疑問に思うのは、荒川区は英語教育に小学校から力
を入れてきているのが、小学校の英語の試験はないですけれども、中学校で何で5.4ポイント
下がってしまうのかという、小学校からずっとやってきた意味があるのかどうかということをも
問われてしまうと、どういうふうに答えたらいいのか。小学校の英語の授業を見ていると、わかる
のですけれども、ヒアリング、聞く能力とか、理解する能力が多分、日常生活の英会話ぐらいは
できるようになるのだろうと。中学校になると教育が全く変わってしまって、英語教育が小・中、
つながっていない部分もあるのではないかと思うのです。文法的なものが多分、5.4ポイント
下がってくるのではないかなと思うのだけれども、その点、小学校、中学校の英語教育について、
どのように考えているのでしょうか。

指導室長 ちょうど今、英語の指導指針の、本区小学校のものが前からあって、それに基づいて
指導しているのですけれども、今年、学習指導要領が中学校の方が変わりましたので、英語の内
容もやはり変わってきているのです。それにしっかりと接続できるような小学校の指導の内容に
ついて、もう一度見直そうということで、この後、英語教育の検討委員会を立ち上げて、そうい
った指針の見直し等を図っていくという予定になっています。

高田委員 この中学校の子たちは、小学校1年生からずっとやってきた子たちですね。

教育部長 今の高田先生の御質問、全くおっしゃるとおりだと思います。私自身も非常に危機感
を持ってしまして、もう全国で5年生、6年生、始まったのですよね。荒川はもう10年も前か
ら1年生からやっていて、それで英語の成績がこういう状況では、これはどこにも説明できない
という思いを強く持ってしまして、せめて1年生から6年生まで、コミュニケーション能力だけ
ではなくて、やはりある意味、英語の中1ギャップをなくすような努力をしていかないといけな
い。これは、「荒川区は、本当に今まで何をやっていたのというのが問われますよ。」と、指導
室長には、来て早々にもう宿題を投げてあったのです。このことについては、これからきちっと

やっていきたいということで、その学習指導要領に当たる、指導指針の見直しに着手して参りますので、中学校の英語につながっていくような形で連携も出していきたいと思っています。

教育長 この前、全国教育長会で発表したのですけれども、これはもう松戸市の教育委員会が先端でやっています。そういう資料も教材指針も全部でつくっているのを参考にしてもらえば。今まで、コミュニケーションだけだというこだわりがありましたから。単語をやったり、文法をやったりというのを、これは間違えだという拒否感が小学校にもありますので、その接続を今、考えていない。今言われたように、どういうところに使っていいかわからないのです。ワールドスクールでも、外国人NEAも本当にそういうコミュニケーションは確かにいいですよ。それとプラスアルファ、今言われたような接続でこの評価をどう変えていくか。前に「小学校の英語をやめてほしい」と、そういうことを言う中学校の先生もいました。

委員長職務代理者 結果がわかったばかりですので。きょう深刻な結果をいただいて、ちょっとショックですね。委員の皆さんからいろいろ御発言がございました。その中でいろいろ各方面から発言があった話題を整理して、さらに今のデータを分析して、ディテールをきちっと定めて、一気にそれを改善するというのができるかできないか、大変難しいと思います。一気にはいかないと思います。もう既に中学生の問題は、四、五年前から成績について教育委員会で検討がなされてきたように思うのですけれども。一気にいかななくてもいいのですが、もうちょっとディテールを、ターゲットを定めて、教育委員会としての分析を十分に、一つ一つできるところからやって。それから、簡単なことは、もう既にお話ができているように、ティーチング・アシスタントは募ることができると。弱いところにそういうものを補充するとか、そういう方法、図を描いて分析してくれると対応が簡単だと思いますので、その方向で、川壽先生、御指導をよろしくお願いします。

教育長 わかりました。

小林委員 やはり教師の力を高めるというのが一番基本だと思うのです。その意味では、教員研修の充実であるとか、あるいは先生方が、あまりにもお忙し過ぎるので、それをどういうふうにすれば、いわゆる雑務から解放されて、教員の力量を向上させ、授業力向上に力を注ぐことができるのかということを考えていただければと思います。

委員長職務代理者 真剣に受けとめていますので、ぜひ、うるさいことを言っているではなくて、本当に深刻に受けとめますので、よろしくお願いします。

教育部長 あと、これは小学校の5年生と中学校の2年生です。だから、これで小学校全体、中学校全体ではないので、それはぜひご理解いただきたいということをお願いします。

先ほどの英語でも、一番低い学校については、実は小学校のときに非常に荒れていて問題になっていた学年が、ちょうどその学校へ行ってしまうような状況もあります。ですから、この一

回だけを見て、なかなか全般的な答えは多分出せないだろうと思っています。そういうことも含めて、今年の春に各学校で独自でやっていた基礎の学力調査を標準学力調査で同じものにしました。ですが、あれは、国語と算数、中学校でいうと国語と数学ということですので、区の学力調査についても、一定、そういった客観的な物差しになるようなものに変えていって、国の学力調査も都の学力調査も特定学年だけですので、それだけではなくて、やはり全体の下敷きになるようなものをきちんとやっていきたい。そういうデータを集めた上での判断をしていなければいけないのだろうという思いはありますので、そこはぜひご理解をいただきたいと思います。

委員長職務代理者 では、分析そして今後の方針をお願いします。委員長、副委員長を中心に話し合いをして、決めてもらうよう頑張りましょう。年末に一番厳しい話になっていますけれども、よろしくをお願いします。

次は、「平成25年『成人の日のつどい』の概要について」、御説明をお願いします。

社会教育課長 「平成25年『成人の日のつどい』の概要について」、御説明させていただきます。

日時につきましては、平成25年1月14日の祝日でございます。開場11時30分、記念式典の開演12時、記念式典の終了は12時50分を予定してございます。その後、第2部、第3部と進みまして、全体の終了は14時30分を予定してございます。

場所につきましては例年どおりでございまして、サンパール荒川の大ホールでございます。

今年の対象学年でございしますが、平成4年4月2日～平成5年4月1日生まれの区民で、参加対象は1,687人。これは12月1日現在でございます。

体制といたしましては、新成人によります実行委員を募集いたしまして、実行委員会形式で運営を行っているところでございます。実行委員については18名、男子が5名、女性が13名でございます。

記念品については、シースルーのアラームクロックでございます。この記念品についても実行委員会の中で選定したものでございます。

当日の内容でございますけれども、11時30分開場、12時から開演、記念式典の中では、国歌斉唱や峡田小学校児童によりますコーラス、主催者あいさつ、来賓の祝辞、来賓の紹介、主催者の紹介、そして最後に、また峡田小学校児童によりますコーラス、「あらかわ そして未来へ」を全員合唱で終了となっております。

その後、引き続きまして、大ホールで第2部を開催いたしまして、恩師からのVTRでありますとか、1,000人フリップでございしますが、来場者全員で色紙を掲げて会場全体で絵を描くという形になってございます。

その後、大ホールから各会場に移動いたしまして、13時15分から第3部でミニパーティー

を予定してございます。中身につきましては、メッセージボード、書き損じハガキの収集、思ひ出ポラポラとかいうことを予定してございます。

14時30分終了でございます。

教育委員の皆様方には、別紙で御案内を差し上げてございますので、当日、11時40分までにサンパール荒川大ホール入り口の来賓受付までお越しいただければと思っておりますのでございます。

参加対象ですが、ここ5年の中では実は一番、人数的には少ない状況がございます。昨年、一昨年在が大体1,800人前後でしたが、今年は1,687人ですから、150人ほど少ないという状況でございます。

ここ何年かは、大体52～53%ぐらいの出席率でございます、大体900人台、900人から970人ぐらいでございます。ただ、今回、全体の人数が150人減っておりますので、900の下の方の数字、若しくは、場合によっては800ぐらいということもあるのかなと考えてございます。

概要については以上でございます。また後ほど結構ですので、14日の出欠についてお知らせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員長職務代理者 ありがとうございます。今の御説明につきまして質問はございますか。

では、御参加をよろしくお願いいたします。

次に、「区議会第4回定例会について」の御説明をお願いいたします。

教育部長 それでは、私から区議会第4回定例会の一般質問について、御報告を申し上げます。

今回の第4回定例会におきましては、4名の区議会議員の方から一般質問がございました。そのうち教育委員会に直接かかわる部分につきましては、共産党の小島和男議員、それから民主党・市民の会の竹内明浩議員の御二方から御質問をいただいたところでございます。

まず、小島和男議員の御質問でございますが、大きな項目として、区民の暮らし応援の緊急対策についてという大きなくりの中で、まず1点目が、日暮里地域の小中学校の児童生徒の発生予想をたて新設校の設置など必要な措置を講じることということでございます。

こうした御質問に対しまして、答弁でございますが、日暮里地域の今後の児童生徒の予想については、当面、増加傾向に推移すると見込んでいる。したがって、地域内の学校においては、一時的に普通教室が不足することも想定し、対応を検討しているところである。教育委員会としては、今後においても、義務教育の責任を果たすため、子供たちが学習しやすい環境の整備に取り組んでいくという御答弁を差し上げてございます。

二つ目でございますが、就学援助の対象拡大を行い、小中学校の学校給食無料化実施を検討することという御質問でございます。

答弁でございますが、本区では就学援助の認定基準、平成20年に生活保護基準の1.2倍と緩和し、制度の充実を図ったところであり、教育委員会としては、現時点でさらなる認定基準の見直しを行う考えはない。

なお、失業や病気等による家計の急激な変化に対しては、これまで同様、個々の家庭の困難度の実態に即して、柔軟な対応に努めていく。

次に、学校給食の無料化については、学校給食法により学校給食を受ける児童・生徒の保護者が学校給食費を負担することとされており、学校給食の無料化は難しいと認識している。

一方で、荒川区においては、食育推進給食として使用食材や献立に工夫を凝らした給食に対して補助をするとともに、米飯給食の推進を図るために米の現物給付を行っており、このことにより保護者の経済的負担を実質的に軽減している。今後も、この取り組みを継続するという御答弁をさせていただいております。

次に、竹内明浩議員の御質問でございます。

まず大きな項目として、コミュニティスクール構想にみられる子供・学校・地域の連携についてということで、子供たちの確かな生きる力を育むためには、学校、家庭、地域が連携・協力した教育が一層必要であると考えます。そこで、地域社会における学校の役割や地域・家庭との関係について見解を問うという御質問でございます。

答弁でございます。近年、家庭の教育力の低下や地域コミュニティの弱体化が危惧されている中であって、地域社会に果たす学校の役割は大きくなっているものと認識している。

学校の役割として、子供たちの個性を伸ばし、社会で自立するための基礎的・基本的な学力や社会の形成者として必要な資質を養う学びの場としての役割。また、地域コミュニティの育成や活動の拠点としての役割、また非常時における避難場所となるなど、地域に安心や安全を提供するという役割も担っていると考えている。

学校と家庭や地域の連携がますます大切になっており、学校と地域との連携を深めるものとして、「コミュニティスクール制度」や「学校評議員制度」があると。

荒川区では平成14年度より、地域の方々や保護者の意見を幅広く聞き、よりよい学校を運営していくための「学校評議員制度」を導入している。年5回の学校評議員会を開催し、開催状況は、他の自治体と比べても充実しており、地域と学校との連携体制を強めている。

また、「学校パワーアップ事業」等を活用し、地域の方々や保護者が学校の教育活動に参加していただく取組も進めている。

教育委員会としては、学校が保護者や地域の方々、各種団体との協力・連携を密にした取り組みを積極的に支援するとともに、地域の安全・安心の向上にも寄与できるよう、努めていくという答弁を差し上げてございます。

竹内明浩議員の大きな項目、次の項目で特別支援の充実についてというところでございます。情緒障がいのある児童・生徒の増加傾向や東京都の特別支援教育推進計画第三次計画を踏まえ、早期に情緒障がい等通級指導学級の設置計画を策定し、明らかにするべきである。教育委員会の見解を問うというものでございます。

答弁でございます。情緒障がいのある児童・生徒は増加傾向にあり、第四峡田小学校の通級指導学級だけでは対応が困難なことから、尾久宮前小学校に通級指導学級を平成25年4月に設置する予定である。

一方で、東京都の特別支援教育推進計画第三次計画に示されている「全ての小中学校に特別支援教室を設置するとともに、拠点となる情緒障がい等通級指導学級を設置する構想」を踏まえると、今後、通級指導学級を小学校で2校、中学校で1校を新たに設置する必要があると考えている。

現在、今後の通級指導学級の設置等について、検討を進めており、早期に方向性を取りまとめ、関係部署と調整の上、計画を策定していくという答弁を差し上げたところでございます。

第4回定例会の一般質問の教育委員会にかかる質問については以上でございます。

教育長 特別支援の子が、情緒的に不安定な子がたくさん増えてきています。全都的にそうです。

小林委員 そうですか。

教育部長 つい最近の新聞で、全体に占める割合が6.7%という話がありましたよね。

教育長 学力についてもいろいろありますが、こういうのが地域にあると安心します。

委員長職務代理者 どなたかご質問ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では、次に進めさせていただきます。

その他の報告事項で、12月から2月までの教育委員会関係主要行事について配付がございます。これにつきまして何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

予定しておりました事項は以上ですが、事務局より連絡事項等ありますか。

教育総務課長 特にありません。

委員長職務代理者 では、ほかにございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、最後に、昨年度、12月最後の定例会は、特段の案件がないことから休会といたしました。次回、12月28日の定例会について何か案件の予定はございますか。

教育総務課長 特に12月28日につきましては、案件の予定がございませんので、休会としても差し支えないかと考えています。

委員長職務代理者 では、12月28日の定例会は、休会といたします。

1月11日の第1回定例会は、1時15分から議員待遇者控室ということになりますので、
よろしく申し上げます。

以上をもちまして、教育委員会第23回定例会を閉会いたします。

了